福祉サービス第三者評価結果報告書【令和6年度】

2025 年　3 月　3 日

東京都福祉サービス評価推進機構
公益財団法人　東京都福祉保健財団理事長　殿

〒　170-0004

所在地　東京都豊島区北大塚２－２４－５　ｽﾃｰｼｮﾝﾌﾛﾝﾄﾀﾜｰ2F

評価機関名　株式会社　地域計画連合

認証評価機関番号　機構　02　―　002

電話番号　03-5974-2021

代表者氏名　江田　隆三　印

以下のとおり評価を行いましたので報告します。

評価者氏名・担当分野・評価者養成講習修了者番号		評価者氏名	担当分野	修了者番号
	①			
	②			
	③			
	④			
	⑤			
	⑥			
福祉サービス種別	認可保育所			
評価対象事業所名称	雪谷保育園			
事業所連絡先	〒	145-0065		
	所在地	東京都大田区東雪谷3丁目6番1号		
	TEL	03-3726-1583		
事業所代表者氏名	藤岡　潤			
契約日	2024 年　4 月　1 日			
利用者調査票配付日（実施日）	2024 年　6 月　20 日			
利用者調査結果報告日	2024 年　10 月　23 日			
自己評価の調査票配付日	2024 年　6 月　20 日			
自己評価結果報告日	2024 年　10 月　23 日			
訪問調査日	2024 年　10 月　30 日			
評価合議日	2024 年　10 月　30 日			
コメント（利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入）	・事前説明にあたっては、令和6年度方式の評点基準、確認根拠資料の準備について、わかりやすい独自資料を用意し、事業者の負担を軽減する工夫を行っている。 ・分析シートは記入のポイントを用意し、効果的、効率的に情報が整理できるよう工夫を行っている。 ・確認根拠資料は、訪問調査の概ね3週間前までに評価機関への提出を依頼し、根拠の事前確認を行ったうえで訪問調査を実施し、訪問当日は事業所の課題や良い点を把握するためのヒアリングに重点を置いて実施している。 ・合議は、訪問調査終了後、同じ日のうちに、速やかに実施している。			

評価機関から上記及び別紙の評価結果を含む評価結果報告書を受け取りました。
本報告書の内容のうち、
- ◉ 機構が定める部分を公表することに同意します。
- ○ 別添の理由書により、一部について、公表に同意しません。
- ○ 別添の理由書により、公表には同意しません。

2025 年　2 月　27 日

事業者代表者氏名　藤岡　潤　印

〔事業者の理念・方針、期待する職員像：認可保育所〕　　令和6年度

《事業所名: 雪谷保育園》

1	**理念・方針 （関連　カテゴリー1　リーダーシップと意思決定）**
	事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、 特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連　カテゴリー1　リーダーシップと意思決定）
	1）安心・安全を大切にします 2）保護者が気軽に意見や要望を出せる保育 3）保育の質の向上（声掛けは冷静かつ肯定的に） 4）ひとり一人の発達や個性を大切にしています 5）自然界の中にある、色々なものにじかに触れる機会を増やし、五感の発達を促す
2	**期待する職員像 （関連　カテゴリー5　職員と組織の能力向上）**
	（1）職員に求めている人材像や役割
	・向上心・協調性のある人 ・五感の発達を促す保育を考え実行する人 ・笑顔を引き出すプロ
	（2）職員に期待すること（職員に持って欲しい使命感）
	・責任感 ・協調性 ・包容力 ・笑顔

《事業所名: 雪谷保育園》

調査対象	2024年6月20日現在の施設の利用者(保護者) 104世帯(利用者総数 132名)を対象とした。
調査方法	WEBアンケート。施設にて担任が保護者に手渡しする形で案内状を配付。保護者任意のデバイスにてアンケートに回答。

利用者総数	132
利用者家族総数（世帯）	104
共通評価項目による調査対象者数	104
共通評価項目による調査の有効回答者数	73
利用者家族総数に対する回答者割合（%）	70.2

利用者調査全体のコメント

総合満足度（大変満足、満足を合計した割合）は、（89%、65人）となっている。

●各設問のうち、「はい」の比率が高かった上位は、以下の項目であった。
問1. 園での活動は、お子さんの心身の発達に役立っていると思いますか
（97%、71人）
問2. 園での活動は、お子さんが興味や関心を持って行えるものになっていると思いますか
問9. 園内は清潔で整理された空間になっていると思いますか
（各々　92%、67人）

利用者調査結果

共通評価項目	実数			
コメント	はい	どちらともいえない	いいえ	無回答非該当
1. 保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか	71	1	1	0
いつも保育士さんたちが愛情をかけてくださって感謝しかありません。 文字の読み書きも少しやっていただけると幼稚園との差がなくなって良いと思います。 子どもたちが季節を感じられるような活動を準備・実施してくださり、我が子も嬉しそうに話してくれます。いつもありがとうございます。 などの意見があった。				
2. 保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか	67	5	1	0
いつも工夫頂いていろんなイベントを企画してくださっています。 日々の公園での遊び、虫や花を見つけた事など、嬉しそうに、教えてくれるので、公園での遊びを、楽しみにしている様です。 お気に入りの遊びは家でもやりたい！とリクエストされます。親もそれを楽しみにしています。 などの意見があった。				
3. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	63	8	2	0
家では食べないのに保育園では食べてくれるので栄養面でたいへん助かっています。 園で手作りいただいているので、安心ですし、子どもたちも大好きだと話しています。 家で作っても食べてくれない事が多いのですが、保育園で食べたものをきっかけに作って欲しいものを言ってくれるようになりました。 などの意見があった。				

4. 保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか	63	8	2	0
公園へよく行っているようです。 行事や祝日などに合わせて紙芝居を読んでくれたりお話をしてくれるので、子どもたちも親より詳しく知っている時があります。 晴れの日は遠くの公園に行っていただいている。 などの意見があった。				
5. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか	48	20	3	2
怪我をしたり、電車の遅延によりお迎えが遅くなった際に、柔軟に対応していただき、非常に助かった。 こちらから説明すれば、理解してくださり、できる限り対応しようとしてくださる。 急な連絡にも空きがあれば快く対応してくれるので大変助かってます。 などの意見があった。				
6. 安全対策が十分取られていると思うか	60	11	2	0
安心感を感じています。 特に危険を感じた場面はないです。 園で怪我をして帰ってくることは、ほとんどないです。 などの意見があった。				
7. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か	58	12	3	0
夏祭りの際、参加しやすかったです。 先生方の努力の賜物です。 保護者会が土曜に開かれるため、非常に有難い。 などの意見があった。				
8. 子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか	55	15	3	0
何か問題があるもしくはあった際には、報告してくれたり相談できる機会を作ってくれたり、アドバイスなど頂けたりしました。 園での様子と家庭での様子のギャップに驚くことが多いですが、家庭での子供の困りごとにも、意見、アドバイスを頂けています。 新しくできるようになったことなどを共有して、可愛がってくれています。 などの意見があった。				
9. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか	67	5	1	0
綺麗にされていると思います。 といった意見があった。				
10. 職員の接遇・態度は適切か	58	11	4	0
素晴らしい対応をしてくださる職員さんもいらっしゃいます。 基本は素晴らしい先生が多いと思います。 皆さん、フランクに話しやすく、嫌な思いをした事はないです。 などの意見があった。				

11. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	62	8	3	0
看護師資格保有者の方がいらっしゃり大変心強いです。 救急車で運ばれた際に、付き添っていただき、心強かったです。 看護師の先生がいつも気にかけてくださったり、体調が悪い時に丁寧に相談に乗ってくださってありがたいです。 などの意見があった。				
12. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	43	27	2	1
子ども同士の対人関係で悩んでいた時配慮してもらい助かりました。 といった意見があった。				
13. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	61	9	3	0
自由に過ごしてそうなので、いつもご迷惑をおかけしてます。 今年度のクラスの先生は、気持ちに寄り添ってくれているように感じています。先生の声よりも子どもの声の方が聞こえてくるので安心しています。 などの意見があった。				
14. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか	60	9	4	0
個人的にはあまり気にしていないので、そういう場面に遭遇したことがありません。共同生活をしている以上、行き過ぎた注意がどこまで必要なのか… 家庭ごとにも基準がありそうなので、難しい問題だとは思います。 特にそのような場に立ち会ったことがありません。 などの意見があった。				
15. 保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか	58	12	2	1
ノートでその日の様子をわかりやすく書いて下さり何をしたかその日の園で何をしたか親もイメージできています。 といった意見があった。				
16. 利用者の不満や要望は対応されているか	50	18	5	0
保護者の意見を柔軟に取り入れてくれています。 ご相談の席を設けてくれました。 今のところ特に不満はありません。 などの意見があった。				
17. 外部の苦情窓口（行政や第三者委員等）にも相談できることを伝えられているか	32	34	7	0
深い説明は無かったような気がしますが、常に掲示もあるので不安に感じたことはありません。 といった意見があった。				

Ⅰ 組織マネジメント項目（カテゴリー1～5、7）

No.	共通評価項目
1	カテゴリー1
	リーダーシップと意思決定
	サブカテゴリー1（1-1）
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている　サブカテゴリー毎の標準項目実施状況　7／7

評価項目1
事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）を周知している　評点（〇〇）

評価	標準項目	
◉ あり ◯ なし	1. 事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている	◯ 非該当
◉ あり ◯ なし	2. 事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている	◯ 非該当

評価項目2
経営層（運営管理者含む）は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている　評点（〇〇）

評価	標準項目	
◉ あり ◯ なし	1. 経営層は、事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている	◯ 非該当
◉ あり ◯ なし	2. 経営層は、事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している	◯ 非該当

評価項目3
重要な案件について、経営層（運営管理者含む）は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している　評点（〇〇〇）

評価	標準項目	
◉ あり ◯ なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている	◯ 非該当
◉ あり ◯ なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している	◯ 非該当
◉ あり ◯ なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている	◯ 非該当

カテゴリー1の講評

園目標や今年度の方針「安心・安全を大切にします」は職員全員に配付して周知している

法人の理念、園目標、区の保育理念、基本方針、保育目標は額に入れて玄関に掲示し誰でも分かるようにしている。職員には次年度に向けての職員会議で法人理念、目標を確認し、園の方針「安心・安全を大切にします」は配付して周知している。職員調査の結果も踏まえ、現在の雪谷保育園マニュアルの中に、理念や方針、園目標、今年度大事にする事から会議計画や中長期計画、事業計画、安全計画他の周知すべき内容も加えて職員全員に配付し、職員会議の時に持ち寄り、場合によっては読み合わせに活用して理解を深めていくように進められたい。

職員に係りや担当の希望を確認し課題対応に合わせた体制を作り園運営を円滑にしている

園は園長・主任の両方が欠ける状況は作らず、必ず報告・相談が出来る体制を常に整えている。さらにクラスリーダーや保育リーダーを中心として、クラスの問題や仕事量の調整を図り報告、相談、フォローの体制も明確化している。またリーダーから職員全員に園の係りや体制の希望を募るアンケートを行い、結果を主任が纏めて係り、園内グループ(環境、防犯・防災、新年度準備、地域交流)、食育や園だより等の担当を決め園長と保育リーダーと共有して園体制を組んでいる。特に園内グループは園の課題対応に合わせた役割を持たせ園運営を円滑にしている。

園内の重要項目は職員会議で意見を聞いて合議で決定し職員全員へ確実に周知をしている

重要案件は法人の各専門分野会議で討議して園長会で決定している。園内の重要な項目は、職員会議で意見を聞いて合議し纏まった事に関して職員全員に周知する手順で行っている。但し危険な事、安全に関する事は園長が判断して決定している。また決定する内容によっては、クラスリーダー会の中で、また乳児・幼児会議の中で決定する事もある。職員には職員会議で決定経緯や内容を伝え周知しており、参加できない職員には議事録の確認として、より確実に周知するために非常勤職員も含めて確認できる伝達ボードの仕組みで毎朝確認し共有している。

2	カテゴリー2
	事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行

サブカテゴリー1（2-1）

事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している

サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 6／6

評価項目1
事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している

評点（〇〇〇〇〇〇）

評価	標準項目	
◉ あり ◯ なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している	◯ 非該当
◉ あり ◯ なし	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している	◯ 非該当
◉ あり ◯ なし	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している	◯ 非該当
◉ あり ◯ なし	4. 福祉事業全体の動向（行政や業界などの動き）について情報を収集し、課題やニーズを把握している	◯ 非該当
◉ あり ◯ なし	5. 事業所の経営状況を把握・検討している	◯ 非該当
◉ あり ◯ なし	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している	◯ 非該当

サブカテゴリー2（2-2）

実践的な計画策定に取り組んでいる

サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5／5

評価項目1
事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している

評点（〇〇〇）

評価	標準項目	
◉ あり ◯ なし	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）の実現に向けた中・長期計画を策定している	◯ 非該当
◉ あり ◯ なし	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している	◯ 非該当
◉ あり ◯ なし	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている	◯ 非該当

評価項目2
着実な計画の実行に取り組んでいる

評点（〇〇）

評価	標準項目	
◉ あり ◯ なし	1. 事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）の実現に向けた、計画の推進方法（体制、職員の役割や活動内容など）、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している	◯ 非該当
◉ あり ◯ なし	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し（半期・月単位など）、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	◯ 非該当

カテゴリー2の講評

職員アンケートで意向を確認し各打ち合わせや園長面談で把握した意見を大切にしている

年度末には職員全員に職員アンケートを行い、次年度に向けた働く上での改善点や意向(職場環境や仕事の効率化、行事の希望担当)を提出してもらい活かしている。また各打ち合わせ(クラス・乳児・幼児・リーダー)の議題は、誰もが話したい内容を書き込める用紙を事務所の共有コーナーに用意して記入し参加者全員で検討しており、職員一人ひとりの声が挙げやすい仕組みとしている。さらに今年度の目標を紙面で作成して確認する機会や、キャリアパスシートの自己評価を踏まえて園長面談を年に2回実施して個人の意向もこの場で把握して対応している。

地域の会議には積極的に参加して園運営に直ぐに反映できる情報も多く収集できている

地域の情報は年2回の雪谷地区保育施設会議(地域の認可園、認証園、小規模保育所や区立園他が参加)に参加して、グループごとに共通のテーマを決めて話し合う機会があり有意義な情報を得ている。参加園には必要に応じて園庭開放や、水遊び、月一回のお話会にも誘っている。また調布地区別園長会(8園参加)には毎月参加しており、こどもの防災服や感染症、保育園事業計画と中期計画について等園運営に直ぐに反映できる内容を共有している。定例の会議の場としては、区の園長会、委託園園長会、また法人の園長会議に参加して情報を収集している。

事業計画は今年度の園の方針も加え重点の実施項目を明示して職員と共有を進められたい

単年度事業計画は今年度の保育方針を明確にして項目別に策定されているが、保育方針を実現するための項目が分かりづらく職員全員と具体的な共有機会も持てていない。但し園長の今年度の方針「安心・安全を大切にします」と目標の「サービス残業0」「保育の質向上」は全員に説明し理解を共にしている。今後は事業計画を園の運営計画と捉えて、事業計画の方針の実現に向けて地域の子育て支援や保護者との信頼関係、事務の効率化等現在進めている事と今年度の方針、さらに中期計画の実施項目を繋げて作成し、職員全員と内容を共有する事に期待したい。

3	カテゴリー3
	経営における社会的責任

サブカテゴリー1（3-1）		
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	2／2

評価項目1
社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる　　評点（〇〇）

評価	標準項目	
◉ あり ◯ なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理（個人の尊厳を含む）などを周知し、理解が深まるように取り組んでいる	◯ 非該当
◉ あり ◯ なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理（個人の尊厳を含む）などが遵守されるように取り組み、定期的に確認している。	◯ 非該当

サブカテゴリー2（3-2）		
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	4／4

評価項目1
利用者の意向（意見・要望・苦情）を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている　　評点（〇〇）

評価	標準項目	
◉ あり ◯ なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	◯ 非該当
◉ あり ◯ なし	2. 利用者の意向（意見・要望・苦情）に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある	◯ 非該当

評価項目2
虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている　　評点（〇〇）

評価	標準項目	
◉ あり ◯ なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している	◯ 非該当
◉ あり ◯ なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている	◯ 非該当

サブカテゴリー3（3-3）

地域の福祉に役立つ取り組みを行っている

サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 **5／5**

評価項目1
透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる

評点（〇〇）

評価	標準項目	
◉ あり ◯ なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる	◯ 非該当
◉ あり ◯ なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している	◯ 非該当

評価項目2
地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている

評点（〇〇〇）

評価	標準項目	
◉ あり ◯ なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている	◯ 非該当
◉ あり ◯ なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク（事業者連絡会、施設長会など）に参画している	◯ 非該当
◉ あり ◯ なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる	◯ 非該当

カテゴリー3の講評

人権擁護のセルフチェックリストを実施し、結果は園長面談時に一緒に考える予定でいる

守るべき法や規範・倫理に関しては入職時に非常勤職員も含めて法人の新人研修を受けて周知し理解を深めている。また区の主催の新人研修も受講している。こどもの人権に関しては今年度に人材擁護のためのセルフチェックリストを職員全員(非常勤職員も含めて)で実施し個人ごとに振り返りをしている。振り返り結果に関しては今後の園長面談時に一緒に考える予定でいる。なお、非常勤職員には職員の対応が気になる部分で思うところを記入して提出してもらっている。11月に予定している園長面談の内容を踏まえて今後の活用方法を考える予定をしている。

相談・苦情受付窓口や第三者委員2名の連絡先を掲示し保護者に分かるようにしている

苦情解決の仕組みは玄関に苦情解決の流れと受付窓口及び第三者委員2名(調布地区)の方々の連絡先が分かるように掲示している。意見や苦情の受付があった場合は、解決に向けた迅速な対応を心がけ、内容や対応の経緯、問題点を明確にして謝罪から合意、今後の取り組みを詳細に記録して解決に向けている。区が委嘱した2名の第三者委員とは面識が持てていない事もあり、一度挨拶をするかコミュニケーションを取る方法を検討し進められたい。なお、園内の職員に向けては、法人の弁護士に直接相談(パワハラ、セクハラ他)できる体制も整えている。

コロナ禍の制限がなくなり地域の子育て支援や地域貢献を再開し今後の拡充を考えている

地域に向けた子育て支援や地域貢献はコロナ禍後に再開し始めている。園庭開放や育児応援券、また保育ママが預かっているこどもに園庭開放や看護師の身体計測等を行い、徐々に範囲を拡大していき、水遊びや月1回開催しているお話会、お楽しみ会へのお誘い、乳幼児保育の相談受付なども始めている。園庭開放で利用した人に声を掛け身体計測の「かわいいカード」も渡している。活動も再開間もないので、他園で定期的な子育て通信の発行事例やPRの方法など区立園に訪問して事例を聞く事や、子育て支援計画も作成して職員全員で取組む事を進められたい。

	カテゴリー4
4	リスクマネジメント

サブカテゴリー1（4-1）

リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる　　サブカテゴリー毎の標準項目実施状況　5／5

評価項目1
事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる

評点（○○○○○）

評価	標準項目	
◉ あり ○ なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク（事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など）を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	○ 非該当
◉ あり ○ なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	○ 非該当
◉ あり ○ なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画（BCP）を策定している	○ 非該当
◉ あり ○ なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	○ 非該当
◉ あり ○ なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	○ 非該当

サブカテゴリー2（4-2）

事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている　　サブカテゴリー毎の標準項目実施状況　4／4

評価項目1
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている

評点（○○○○）

評価	標準項目	
◉ あり ○ なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員（実習生やボランティアを含む）が理解し遵守するための取り組みを行っている	○ 非該当
◉ あり ○ なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・管理している	○ 非該当
◉ あり ○ なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	○ 非該当
◉ あり ○ なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	○ 非該当

カテゴリー4の講評

園のリスクは不審者侵入や災害、事故を優先的に捉え安全計画に基づき対策を講じている

周辺環境から園のリスクは不審者侵入、災害、事故が優先度は高く安全計画に基づき、警察官立ち合いによる防犯訓練や警察と区による交通安全教室、毎月の避難訓練など確実に行っている。また看護師主催の専門的研修も7月までの間に、嘔吐処理、痙攣、心肺蘇生の対応他7種類を実施しており、年度末には消防署による救命救急の講習を全員が受ける予定をしている。安全計画では、公園のマップの点検や最短距離よりも安全を一番に考えたルートを決める等、とても具体的なので職員との共有、加えて保護者とも共有し玄関への掲示も進められたい。

事業継続計画は重要な部分を職員と読み合わせ、見直し意見も聞いて理解を深められたい

事業継続計画(BCP)は詳細化され職員には期間を決めて必ず目を通すように義務付けて周知しているが、園長は実際に災害が起きた際にどこまで理解しているかが不安で課題と認識している。自衛消防隊の事務所掲示や備蓄品管理、また福祉避難所として緊急時には区の職員を向かい入れる準備も行っている。発災時の対応と発災後の復旧・復興の対応、職員の参集体制などの重要な部分は職員会議で読み合わせして、職員から現実と違う部分の見直し意見を聞く事で全員の活動となるように進められたい。また保護者へもBCPを策定している事は伝えられたい。

児童票や児童調査票等の個人情報管理や電子機器の管理等情報管理は適切に行われている

園内の児童票や児童調査票はファイルにして鍵付きの書庫に厳重に保管し、更新や変更の場合は事務所で行う事をルールとしている。また電子機器の管理もタブレットは各クラスで保有し、使用後は全て事務所管理として鍵付きの書庫に保管している。デジタルカメラに関しては、SDカードなどのデータは園長が保管し流出防止に努めている。個人情報の取り扱いに関しては新入園児オリエンテーション時に重要事項説明書をパワーポイントで視覚的に説明して、入園時に「個人情報の利用目的について」書面で保護者から同意書・承諾書をもらい管理している。

	カテゴリー5
5	職員と組織の能力向上

サブカテゴリー1（5-1）		
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる	**サブカテゴリー毎の標準項目実施状況**	**12／12**

評価項目1
事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている

評点（〇〇）

評価	標準項目	
◉ あり ◯ なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している	◯ 非該当
◉ あり ◯ なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる	◯ 非該当

評価項目2
事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している

評点（〇〇）

評価	標準項目	
◉ あり ◯ なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望（キャリアパス）が職員に分かりやすく周知されている	◯ 非該当
◉ あり ◯ なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望（キャリアパス）と連動した事業所の人材育成計画を策定している	◯ 非該当

評価項目3
事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる

評点（〇〇〇〇）

評価	標準項目	
◉ あり ◯ なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している	◯ 非該当
◉ あり ◯ なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成（研修）計画を策定している	◯ 非該当
◉ あり ◯ なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成（研修）計画へ反映している	◯ 非該当
◉ あり ◯ なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている	◯ 非該当

評価項目4
職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる

評点（〇〇〇〇）

評価	標準項目	
◉ あり ◯ なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇（賃金、昇進・昇格等）・称賛などを連動させている	◯ 非該当
◉ あり ◯ なし	2. 就業状況（勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど）を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる	◯ 非該当
◉ あり ◯ なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる	◯ 非該当
◉ あり ◯ なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている	◯ 非該当

サブカテゴリー2（5-2）		
組織力の向上に取り組んでいる	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	3／3

評価項目1
組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に
取り組んでいる

評点（〇〇〇）

評価	標準項目	
◉ あり ◯ なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している	◯ 非該当
◉ あり ◯ なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている	◯ 非該当
◉ あり ◯ なし	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる	◯ 非該当

カテゴリー5の講評

園長の人材育成の想いは職員が自ら専門性を高めたいと思えるようにする事と考えている

園長の人材育成に向けた想いは、職員同士や保護者に向けて元気に挨拶が出来る事を基本として、自己啓発や自己成長の場である研修を受け身の姿勢から、職員自らが研修に行きたい、保育の専門性を高めたいと思えるようにしていきたいと考えている。今年度よりキャリアパスチェックシートを法人として導入し、半期に1回職員が自己評価して園長と面談する仕組みが出来ている。ステージによって全てが達成しないと次のステップに上がれない内容となっており、キャリアパスも明確であることから今後の定着に向けてこれから実施していくところである。

園は研修機会を豊富に揃えて受講を促し、グループ討議も継続して行い学びに繋げている

園は園内研修及び区の研修(25項目)また法人研修(4/20合同)等豊富にあり、職員の時間が許す限り受講を促している。園内研修では、非常勤職員も含めて看護師の安全衛生に関わる研修(嘔吐処理や心肺蘇生他)の実施や、昨年度は経験年数別にグループを作り「働きやいす職場」にするために全員で討議してアイデアを付箋で書き出して実践に繋げている事や、事例研修として「不適切保育」についても付箋を使いグループ討議を行っている。今年度は公開保育も行い法人内他園も見学し学びの機会を持ち、また「運動遊び」の園内研修も予定している。

グループ討議の活性化を踏まえ今後も話し合いの場を作り同僚性を高める事に期待したい

昨年の園内研修で「働きやすい職場」にするためにグループ討議でアイデア出しを行い、付箋で出た意見を纏めて園運営に活かしている。同様に「不適切保育」のグループ討議も付箋を活かして実施し貴重な意見が沢山出てきている。現在時短後のシフト体制の厳しさもあるが、グループ討議或いは小人数で話し合う機会が活性化している事も踏まえ、例えばテーマは職員から事前に集めて、職員会議の時間の一部を活用したり、内容によっては2か月間連続して行うなど、全職員が参加できる話し合いの場を作り意見交換を通して同僚性を高めることに期待したい。

	カテゴリー7
7	事業所の重要課題に対する組織的な活動

サブカテゴリー1（7-1）

事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている

評価項目1

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている（その1）

前年度の重要課題に対する組織的な活動（評価機関によるまとめ）

職員全員が平等に時間を使い、就業時間内に協力し合いながら仕事を終えられるようにしたいと考え、目標を「残業ゼロへの取り組み」と定めて次の取り組みを始めた。
①職員会議は内容を事前にパソコンに打ち込み、職員は予め目を通してから参加する事で、プラスアルファの説明を加える時間を確保した
②行事の前日は職員の休暇を極力入れずに、午前中から保育から抜けて準備が出来るように時間を保障した
③保育日誌のプリントアウトを廃止しパソコンの画面上で確認、押印する事とした
取り組みの結果、会議の進め方は、事前に目を通しておくことで質問もしやすく、活発な意見交換が出来るようになった。また行事の準備は、ゆっくりと丁寧にできるので係の負担も軽減でき、日中に行うので応援体制も取りやすくなった。さらにプリントアウトの廃止は、ファイリングや事務所に取りに行く作業の軽減となり、用紙の削減にもつながった。但し、サービス残業は目に見えてなくなったが、人員不足などによる残業発生はあるためゼロには到達していない。
今年度は着替えの時間・引継ぎの時間も仕事時間内に保障する事で保育の時間とのメリハリをつけていき、引き続き残業ゼロへの取り組みを継続していく。

目標の設定と取り組み	◉ 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った ○ 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった ○ 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	◉ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った ○ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった（目標設定を行っていなかった場合も含む） ○ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	◉ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた ○ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない ○ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目1で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

職員全員が平等に時間を使い、終業時間内に協力しあいながら仕事を終えられるようにしたいと願い、目標を残業ゼロへの取り組みと定めて活動を始めている。園の事業計画にも職員の働き方改善を重点にして取り組んでいる。
職員会議の従来の進め方を変更して事前に内容を確認してから参加するようにした事や、行事の準備は前日の昼から始め残業をしないように体制を組んだ事、そして職員からの意見も踏まえて、日誌のプリントアウトを廃止してパソコン上で確認や押印する事に変更している。
会議の進め方変更は時間短縮に繋がり他の説明を加える時間が確保された事や、事前の内容確認で活発な意見交換にも繋がっている。また行事の準備も余裕が持て係の負担軽減や日中に行うので応援体制も取りやすくなっている。さらに日誌のプリントアウトの廃止で付随する作業の軽減や用紙の削減に繋がっており、3つの実施項目で大きな成果が得られている。
今年度は着替えの時間・引継ぎの時間も仕事時間内に保障する事で保育の時間とのメリハリをつけていき、引き続き残業ゼロへの取り組みを継続していくとしてPDCAを回してさらに改善に向けている。

評価項目2
事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている（その2）

前年度の重要課題に対する組織的な活動（評価機関によるまとめ）

コロナ禍で制限があり閉鎖的になっていた在宅子育て家庭の育児に向けて、交流の場を増やしていきたいと考えて、目標を「地域における子育て支援の再開と地域交流を含め社会的役割を果たす(園庭開放・育児応援券の再開)」と定めて次の取り組みを行った。
①園庭開放のポスターを作成して出張所や園入り口に掲示してアピールした
②区の子育て支援の研修に参加して他園の取り組みを学んだ
③コロナ禍で疎遠になっていたボランティアの方々や小学校、近隣保育園に連絡して交流再開の打診をした
取り組みの結果、園庭開放を再開し参加利用者は5件、14名、育児応援券の利用は9件、19名の利用実績に繋がった。また近隣3園との交流会を実施、さらにボランティア(トムテ)のお話会を再開し月1回の開催が出来た。小学校2校との交流も再開し、地域との関わりが復活した。
しかし年間を通して利用者が少なかった事は反省として、利用者同士の交流の場とするためにも利用者を増やしていきたいと考えている。
今年度も継続して見学会やポスター掲示で情報を提供して、新たに水遊びと年末お楽しみ会の行事へのお誘いを増やし、サービスの向上に努めリピートを増やしていく。

目標の設定と取り組み	◉ 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った ○ 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった ○ 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	◉ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った ○ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった（目標設定を行っていなかった場合も含む） ○ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	◉ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた ○ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない ○ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

今まではコロナ禍の影響で地域の子育て支援や交流の場が持てていなかった事から、制限も解消してきたので園庭開放や育児応援券の再開も含めて、地域における子育て支援の再開と地域交流を深めて社会的役割を果たす事を目標に活動を始めている。
再開にあたり、園庭開放もポスターを作成して出張所や園入り口に掲示してアピールする事や、区の子育て支援の研修に参加して他園の取り組みを学んでいる。またコロナ禍で疎遠になっていたボランティアの方々や小学校、近隣保育園に連絡し交流再開の打診をしている。
活動の結果、園庭開放や育児応援券の利用が少しずつ増えてきた事や他園の取り組みを参考にして、行事へのお誘いに繋げた事、また近隣3園と交流やボランティアによるお話会(月1回)、小学校交流などを再開する事が出来た事はとても良い成果と言える。
しかし年間を通して利用者が少なかったことは反省として、今後も利用者数を増やして共に交流が出来るようにしたいと考えている。
今年度も継続して見学会やポスター掲示で情報を提供して、新たに水遊びや年末お楽しみ会の行事へのお誘いを増やし、サービスの向上に努めリピートを増やしていくとしてPDCAを回している。

Ⅱ サービス提供のプロセス項目（カテゴリー6-1～3、6-5～6）

No.	共通評価項目		
	サブカテゴリー1		
1	サービス情報の提供	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	4／4
	評価項目1 利用希望者等に対してサービスの情報を提供している	評点（○○○○）	
	評価	標準項目	
	◉ あり ○ なし	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している	○ 非該当
	◉ あり ○ なし	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものにしている	○ 非該当
	◉ あり ○ なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している	○ 非該当
	◉ あり ○ なし	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している	○ 非該当

サブカテゴリー1の講評

利用希望者には区や法人のホームページで見学日や園の情報を提供している

利用希望者に対しては、区のホームページに、所在地や交通アクセス、連絡先の他、施設の概要として、保育目標や行事、園周辺の様子とともに、園の特色には、園庭で野菜やお米を育てていること、ボランティアによる読み聞かせや近隣園との交流など園の様子がわかる内容が提供されている。また、欠員リストとして空情報も掲載されている。法人のホームページには園見学は電話や問い合わせフォームからアクセスでき、随時対応していることを掲載するなど、利用者希望者が必要な情報を得ることができるようにしている。

園の事業内容のパンフレットを作成し、区の担当課に園の情報を報告している

園の情報は年度の初めに、法人の職員数や延長保育の利用人数、休日保育の利用人数を報告し、毎月在籍数や怪我、感染症の情報などを行政の担当課に連絡をしている。また、地域で発行している子育てマップや区の情報誌の子育てハンドマップにも園の概要が掲載されている。園のパンフレットは法人が作成し、園長会で見直しがされている。法人の理念の他、保育目標、保育理念、保育基本方針などが掲載されている。

見学は区のホームページで確認し電話で申し込んでもらい、見学受付表で把握している

見学会は、行政からは年6回設定をするように指導があるが、年8回実施するほか個別の問い合わせにも対応している。見学日の希望は電話で問い合わせをしてもらい、見学会受付表に記録し、把握できるようにしている。見学は10時から1回に10組を対象に園長または主任が園舎内を案内して、重要事項説明書を配付して説明をしている。見学者からは、安全対策のこと、荷物の置き場、外部講師が対応している保育活動のことなどの質問が寄せられ、丁寧に対応している。

2	サブカテゴリー2		
	サービスの開始・終了時の対応	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	6／6

評価項目1
サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている

評点（○○○）

評価	標準項目	
◉ あり ○ なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している	○ 非該当
◉ あり ○ なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている	○ 非該当
◉ あり ○ なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している	○ 非該当

評価項目2
サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている

評点（○○○）

評価	標準項目	
◉ あり ○ なし	1. サービス開始時に、子どもの保育に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している	○ 非該当
◉ あり ○ なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している	○ 非該当
◉ あり ○ なし	3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている	○ 非該当

サブカテゴリー2の講評

入園が決まるとオリエンテーションと面談を行い、重要事項の説明をして同意を得ている

入園の決定は、行政から園と保護者に連絡があり、その後保護者に入園に必要な児童調査票や食材チェック確認表などの書類を取りに来てもらい、面談の希望の日を聞き取っている。入園のオリエンテーションは、0歳児と1歳児以上の2部制にして、園医の健康診断も含め土曜日に実施している。重要事項の説明はプレゼン用ソフトで詳しく説明できるようにして、説明内容の同意書を同日に提出してもらうようにしている。個別の面接は保護者から聞き取った希望日に実施し、園長、主任、保育士、看護師、栄養士が、それぞれの専門分野を聞き取る様にしている。

入園面談で把握したこどもの情報は、職員間で共有し、保育に活かしている

保育で必要なこどもの情報は、新入園児面談で、全年齢共通の調査表や年齢別の児童調査表、1歳児以上の食材チェック確認表などの記載内容を確認している。入園面談で得たこどもの個別の情報は、新入園児面談記録に、面談担当の職員が記入し、クラスごとにまとめ、登降園時間、家庭状況、こどもの癖、発達について、アレルギー児や熱性けいれん、配慮が必要な児などの項目について、新年度の場合にはクラスリーダーやメンバーを発表後の職員会で周知し、共有して、保育に活かせるようにしている。

慣れ保育は、こどもの状況に配慮し、保護者の予定に合わせながら設定している

入園時の慣れ保育は、慣れ保育スケジュール表を見ながら決めるようにして、概ね1週間ほどを目安に保護者と決めた保育時間になるようにしている。保護者の就労状況に配慮しながら、1日目は9時または9時15分から11時をめどに始め、翌日からは12時、15時、16時と保育時間を延ばす予定にしているが、個々のこどもの状況に配慮して、例えば給食までの時間を2日間かけるなど保護者と相談しながら対応をしている。慣れ保育中は3名のフリー職員や主任、看護師がクラスに入って、こどもの不安が軽減できるように、きめ細かい配慮をしている。

サブカテゴリー3

3 個別状況の記録と計画策定

サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 13／13

評価項目1
定められた手順に従ってアセスメント（情報収集、分析および課題設定）を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している

評点（〇〇〇）

評価	標準項目	
◉ あり ◯ なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している	◯ 非該当
◉ あり ◯ なし	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している	◯ 非該当
◉ あり ◯ なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	◯ 非該当

評価項目2
全体的な計画や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している

評点（〇〇〇〇〇）

評価	標準項目	
◉ あり ◯ なし	1. 指導計画は、全体的な計画を踏まえて、養護（生命の保持・情緒の安定）と教育（健康・人間関係・環境・言葉・表現）の各領域を考慮して作成している	◯ 非該当
◉ あり ◯ なし	2. 指導計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、保育の過程を踏まえて作成、見直しをしている	◯ 非該当
◉ あり ◯ なし	3. 個別的な計画が必要な子どもに対し、子どもの状況（年齢・発達の状況など）に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	◯ 非該当
◉ あり ◯ なし	4. 指導計画を保護者にわかりやすく説明している	◯ 非該当
◉ あり ◯ なし	5. 指導計画は、見直しの時期・手順等の基準を定めたうえで、必要に応じて見直している	◯ 非該当

評価項目3
子どもに関する記録を適切に作成する体制を確立している

評点（〇〇）

評価	標準項目	
◉ あり ◯ なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	◯ 非該当
◉ あり ◯ なし	2. 指導計画に沿った具体的な保育内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	◯ 非該当

評価項目4
子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している

評点（〇〇〇）

評価	標準項目	
◉ あり ◯ なし	1. 指導計画の内容や個人の記録を、保育を担当する職員すべてが共有し、活用している	◯ 非該当
◉ あり ◯ なし	2. 子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報について、職員間で申し送り・引継ぎ等を行っている	◯ 非該当
◉ あり ◯ なし	3. 子ども一人ひとりに対する理解を深めるため、事例を持ち寄る等話し合う機会を設けている	◯ 非該当

サブカテゴリー3の講評

こどもの生活や心身状況は、日々の活動で把握し、区の様式に記録している

日々のこどもの姿は、保育活動の中で把握し、保育日誌の全体の姿欄に記録している。家庭での様子は、0歳児から2歳児は連絡帳で把握し、幼児クラスは、毎朝の健康観察を通して確認し、クラス別の連絡簿に記録している。区の様式の児童票の発達記録に、毎月1回子どもの成長の姿を記録し、把握できるようにしている。保護者との個人面談を全園児対象に年1回実施し、個人面談記録に保護者とのやり取りの記録をしている。また、年長児の保護者に対しては、さらに1回実施し、就学に向けた支援ができるようにしている。

全体的な計画は園長が作成し、クラスの計画の作成には主任やリーダーが添削している

全体的な計画は園長が作成し、職員にはファイルにして配付し見るように伝えている。年間指導計画は、法人の主任会でフォーマットを作成し各クラスで活用し、計画を変更した時には期の反省欄に記入している。月の指導計画は、提出された計画をクラスリーダーが確認し主任と保育士リーダーが添削して作成した保育者に内容を伝え、保育の質の向上に繋がるようにしている。保育の記録を書く時には、ねらいに対して、感想ではなく何を書くことが必要かなど「書き方マニュアル」で指導している。全体的な計画を読み合い確認する機会の検討が必要と思われる。

こどもの情報は、電子媒体で確認したり、伝達ノートやクラス内昼礼で共有している

指導計画やこどもの個人記録などを確認したいときには、電子媒体にアクセスできる職員を決め、他の職員には必要に応じて口頭で伝えている。0歳児から2歳児は毎日クラス内での昼礼を5分程行い、こどもの情報を共有している。全体で共有した方がいいと判断した時には、伝達ノートに記入したり、月1回の職員会議で報告がされ、周知できるようにしている。職員が全体で集まる機会は年3回と限られているので、こどもに対する理解を深めるために、事例を持ち寄るなどの話し合いの機会を作るためにの、検討を期待したい。

5	サブカテゴリー5		
	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	5／5

評価項目1
子どものプライバシー保護を徹底している

評点（〇〇）

評価	標準項目	
◉ あり ◯ なし	1. 子どもに関する情報（事項）を外部とやりとりする必要が生じた場合には、保護者の同意を得るようにしている	◯ 非該当
◉ あり ◯ なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている	◯ 非該当

評価項目2
サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している

評点（〇〇〇）

評価	標準項目	
◉ あり ◯ なし	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している	◯ 非該当
◉ あり ◯ なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した保育を行っている	◯ 非該当
◉ あり ◯ なし	3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている	◯ 非該当

サブカテゴリー5の講評

重要事項説明書で、個人情報の取り扱いについてを掲載し関係機関と連携をしている

入園時に説明をする重要事項説明書の中で、個人情報の取り扱いについてを掲載し、プライバシーポリシーで個人情報保護法の説明をして、個人情報の利用・提供の例として、区内転園の場合の個人情報の受け渡しについての承諾書をもらっている。また、個人情報の利用目的についてとして、7項目を挙げ利用目的を示し、承諾を得るようにしている。職員は、プライバシーポリシーについて、入職時に研修を受け学ぶ機会をもっている。

こどもの羞恥心に配慮したり、子どもへの保健指導や職員が言動を振り返る機会がある

こどもの羞恥心に対しては、洋服の脱ぎ方を指導したり、着替えの時にはロールカーテンを下すなどの配慮をしている。シャワーが始まる時期に，からだの話として男女の体の違いとプライベートゾーンの部位についての理解をするために、看護師が3歳児に保健指導をしている。保護者からの要望もあるので、4・5歳児も含めもう一度実施を予定している。こどもの権利については肯定的な声かけを意識するように伝え、セルフチエックリストをパート職員も含め配付し、園長面談の時に持参してもらい、一緒に考え自分を振り返る機会にしたいと考えている。

虐待ケースに対応ができるように情報を共有し、報告内容を決め関係機関と連携している

虐待防止マニュアルとともに、虐待発見のフローを掲示し、職員が意識できるようにしている。関係機関とは見守りケースで連携をしている。登園時も含め、家庭の様子を丁寧に把握し、虐待ケースを発見した時には、園長に速やかに報告をし、主任や看護師、担任も含め職員間で確認し、保護者の言動やこどもの様子を把握し、こども家庭センターと連携をしている。情報を共有する体制を整えていることで、こども家庭センターからの情報を得る機会もある。

6	サブカテゴリー6		
	事業所業務の標準化	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	5／5

評価項目1
手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている

評点（〇〇〇）

評価	標準項目	
◉ あり ◯ なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	◯ 非該当
◉ あり ◯ なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている	◯ 非該当
◉ あり ◯ なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	◯ 非該当

評価項目2
サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている

評点（〇〇）

評価	標準項目	
◉ あり ◯ なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は改変の時期や見直しの基準が定められている	◯ 非該当
◉ あり ◯ なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている	◯ 非該当

サブカテゴリー6の講評

業務の標準化を図るために、仕事の流れや水遊びなどのマニュアルを職員に配付している

業務の標準化を図るために、園独自のマニュアルを整備している。各クラスのデイリー、仕事やその流れ、シャワーや泥んこ遊びなどの他に、書類の書き方マニュアルなどが作成されている。これらのマニュアルは、職員に個別に配付され、活用できるようになっている。今後は、区で作成されて事務所の書棚に管理されているマニュアルの存在を職員に周知し、必要な内容は読み合わせをするなどの機会を持つことを期待したい。

園舎内外の設備の安全確認や各クラスの保育室内や園庭、園外での安全点検をしている

区のマニュアル関係は事務所の書棚に保管されている。園独自のマニュアルは、新人職員や異動職員には配付され、また、毎年見直しが行われている。職員は早番や延長番、土曜日や休日保育の際にマニュアルで確認をしている。園舎内外の設備の安全点検は、設備の安全点検と衛生点検も含め年2回実施し、点検表に点検したか、しなかったかの印をつけている。またクラス別に、園舎内（登園時・園舎内活動時・食事おやつ時・排泄時・午睡時・降園、延長保育時）、園庭、園外の点検項目があり、5月と12月にクラスごとに点検をして園長に提出をしている。

業務の見直しでは、マニュアルは随時変更し年度末に職員アンケートを取り見直している

業務の見直しの時には、行事では保護者からアンケートを取り、次年度の企画に活かしている。園独自のマニュアルの見直しは、リーダー会や職員会議で検討がされ、その都度見直しをし変更したり、緊急に会議を開いて見直しをすることもあるが新年度準備とかさなることを検討したいと考えている。年度末には職員アンケートを取り、今年度は行事の取り組みの際の、0歳児から2歳児の職員と幼児クラスの職員の温度差に対する改善の提案があり、特に行事で使う作り物に対する改善が行われるなど、職員の意見やアドバイスを反映した改善が行われている。

Ⅲ サービスの実施項目（カテゴリー6-4）

	サブカテゴリー4		
	サービスの実施項目	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	36／36

1 評価項目1
子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている

評点（○○○○○○）

評価	標準項目	
◉ あり ○ なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている	○ 非該当
◉ あり ○ なし	2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけることができるよう、環境を工夫している	○ 非該当
◉ あり ○ なし	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している	○ 非該当
◉ あり ○ なし	4. 特別な配慮が必要な子ども（障害のある子どもを含む）の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している	○ 非該当
◉ あり ○ なし	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル（けんか・かみつき等）に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている	○ 非該当
◉ あり ○ なし	6.【5歳児の定員を設けている保育所のみ】 小学校教育への円滑な接続に向け、小学校と連携をとって、援助している	○ 非該当

評価項目1の講評

受け入れ時の健康観察や連絡帳・日々の保育から、こどもの全体的な姿を把握している

入園前面接でこども一人一人の発達状況をや生活環境等を確認をした書類や、毎朝の受け入れ時の健康観察、連絡帳、保護者からの伝言をクラスの連絡簿に記入し、家庭での様子を事務所職員も含め連絡帳で確認を行いこどもの姿の把握を行っている。また個人面談時の情報や日々の保育も含め、こどもの全体的な姿を捉えている。各クラスでは年齢や発達に合わせ安全を意識しつつ、遊びが広がるような環境作りを行い、こどもの意見を取り入れ遊びに興味や関心を抱くことが出来るような営みをしている。

異年齢児での関りを持ち互いを意識し憧れや労りの心を育て尊重できる保育を育んでいる

日常の保育の中で互いの存在を認め、言葉の違いや肌の色・男女の区別を意識させないように心がけて保育を行っている。また幼児組では5月より、3・4・5歳の同じマークのこども同士で3つの混合グループを作り活動を行っている。年齢の違う中で互いを尊重する心が育つように一緒に散歩に出かけ、お月見団子を作ったり、クリスマス会等の行事に参加している。園庭のプランターに植えた夏野菜をグループ毎に協力してピザの具材としてトッピングを行いみんなで食べる等、色々な行事に一緒に活動する中で憧れや労りの気持ちを育んでいる。

支援の必要なこどもには加配保育士が援助し、トラブルに際しては保護者に知らせている

支援が必要なこどもには、加配職員を配置し必要な援助を行っている。集団の中で同じ行動が取れない場合には場所を移し、他の場所で同じことをやるようにしている。発達過程で生じるトラブルについて双方や周りのこども達から聞き取りを行い、経緯などを把握してお互いの気持ちを受け止め寄り添いつつどうすれば良かったのかを一緒に考えている。迎えに来た保護者には担任から謝罪を行い、経緯や手当などを知らせ理解を促している。怪我をしてしまった場合には記録に残し、今後の検討材料としている。

2 評価項目2

子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した保育を行っている

評点（〇〇〇〇）

評価	標準項目	
◉ あり ◯ なし	1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している	◯ 非該当
◉ あり ◯ なし	2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう援助している	◯ 非該当
◉ あり ◯ なし	3. 休息（昼寝を含む）の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している	◯ 非該当
◉ あり ◯ なし	4. 降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている	◯ 非該当

評価項目2の講評

こどもが登園する前に連絡帳の確認を行い、受け入れ時に健康観察を行っている

連絡帳は登園前までに配信され記入してある睡眠時間や食事・排泄などを確認をして登園時には、こどもの家庭での様子を把握して、保護者と会話を図りながら健康観察を行っている。保護者から連絡を受けた事項はクラス連絡簿に記入して、クラスで共有を図っている。園からの配信は16時とし、連絡帳の無いクラスの必要事項については、電子アプリで互いに伝え合いこどもの状況を把握できるようにしている。保護者は伝え漏れが有ると事務所の窓越しで職員に伝えている。

基本的生活習慣の自立に向けた取り組みを家庭と連携を図りながら、行っている

基本的生活習慣の自立に向け、トイレトレーニングの前段階としてを1歳児から排尿間隔にチェックをつけて把握している。2歳児ではトイレトレーニングについて家庭と協力をしながら進める事を保護者会で伝えている。お箸については、食育活動でゲームや大豆、マカロニを掴んでみる体験を行い、家庭で上手に持てている子から園で始める等、家庭と連携を図りながら行うことを伝えている。着脱については、こどもが着脱しやすい物の用意を保護者にお願いしている。生活リズムについては連絡帳で把握し、相談が有れば看護師、園長が話を聞いている。

早く目覚めたこどもは、みんなが目覚めるまで横になって過ごし生活リズムを整えている

0歳児クラスでは、こどもの家庭での睡眠状況等により午前寝が出来るようにしたり、午睡時間の少ない子どもには夕寝をする等こどもの生活リズムを整えている。0歳～2歳児クラスでは午睡時に早く目覚めたこどもには、前室で保育士と遊んでみんなが目覚めるのを待っている。幼児クラスではみんなが起きるまで布団にいることを伝えている。2歳児クラスでも後半になると布団でみんなの目覚めの時間まで横になって待つようにする等して、子どもの生活リズムを整えている。5歳児は1月ごろから午睡を無くして行く計画をしている。

3 評価項目3

日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している

評点（〇〇〇〇〇〇）

評価	標準項目	
◉ あり ◯ なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている	◯ 非該当
◉ あり ◯ なし	2. 子どもが、集団活動に主体的に関われるよう援助している	◯ 非該当
◉ あり ◯ なし	3. 子ども一人ひとりの状況に応じて、子どもが言葉（発声や喃語を含む）や表情、身振り等による応答的なやり取りを楽しみ、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している	◯ 非該当
◉ あり ◯ なし	4. 子どもが様々な表現を楽しめるようにしている	◯ 非該当
◉ あり ◯ なし	5. 戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じとることができるような視点を取り入れている	◯ 非該当
◉ あり ◯ なし	6. 生活や遊びを通して、子どもがきまりの大切さに気付き、自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している	◯ 非該当

評価項目3の講評

0歳～2歳児はグループで活動をし、幼児では年齢に応じた制作活動を楽しんでいる

0歳～2歳児クラスでは2グループに分かれ少人数で遊びを楽しみながら活動を行い、個々の様子を配慮している。幼児クラスでは訪問当日の課題保育の時間には、ハロウィンに向けて各クラスで年齢に応じた制作活動を行っていた。5歳児クラスではゲーム等、こども同士で関わり合って遊べる玩具を多数置いている。0歳～2歳児クラスでは玩具を季節や時期により入れ替えを行っている。こどもが自分で玩具を選んで遊ぶことができる環境を用意して、朝夕にはしっかり遊びこめる時間を作っている。

毎月のおはなし会に参加し言葉による関わりの楽しさを知らせ、語彙を増やしている

幼児クラスでは毎月ボランティアの人によるおはなし会で読み聞かせをして貰っている。言葉が少ない配慮の必要なこどもへは、思いを言葉にして伝え、語彙を増やすような配慮を行っている。乳児クラスでは、「〇〇ちゃん」と友だちの名前を読んで知らせたり、繰り返しの言葉を楽しめる絵本の読み聞かせや、保育者の言葉を模倣できる様な「かきかき」等簡単な言葉を伝え発語を促している。またこどもの指差しや思い、欲求に言葉を添えて応答的な関わりを行い、楽しさを知らせ語彙を増やしている。

散歩中草木や花を見て季節を感じたり公園で遊びのルールを知らせ安全に気をつけている

園舎周辺には公園が13か所あり年齢によっての散策や広い場所で遊ぶ等の目的を持ち散歩先を担任が決め、楽しめるようにしている。道中の草木を見て季節を感じたり、収集を目的とするときには、自分で好きな花や葉、木の実等を拾い各自の袋に入れ持ち帰り、園で制作に使ったり自宅に持ち帰ったりしている。幼児クラスは、固定遊具で遊ぶなどの目的で出かけることもあり、公園内で遊具を使い遊ぶ時には、友だちと交代で使うなど安全に留意した使い方を知らせている。年長児は田植えや稲刈りを行い、季節を感じる取り組みをしている。

4 評価項目4

日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している

評点（〇〇〇）

評価	標準項目	
◉ あり ◯ なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	◯ 非該当
◉ あり ◯ なし	2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している	◯ 非該当
◉ あり ◯ なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	◯ 非該当

評価項目4の講評

行事に期待を持ち、参加して楽しむことができる計画をしている

こどもが楽しかったと言える行事を大切に参加型行事を行っている。行事の前日に3歳児は玄関の雪谷マルシェ（市場）へ出かけ、保育士による店員にカードを渡しニンジン、ジャガイモ、玉ねぎの3種を一人ずつ購入して、翌日のカレー作りに期待を持たせている。行事当日4・5歳児が野菜の皮むきや刻み等を行っている間にも、3歳児は調味料探しをする等して自分たちが関わり、カレーが出来るまでの間に魚釣りやゲームを幼児組で交代で行い、キャンプファイヤーの周りで歌を歌ったりダンスをして関わり合いを持ちながら、楽しく参加している。

年長児は自分たちで考え工夫をして作ったお店を出店して、達成感を味わっている

年長児はお店屋さんごっこの内容を、みんなで話し合い決めている。ゲームセンターが良いと結果が出たものの、「どうやって作るか」で悩み、「食べ物ならば自分たちで作ることが出来るかも、簡単なゲームも作れる」と話が決まり、結果フリフリポテト屋、射的ゲーム屋、チョコバナナ・フルーツ飴屋、缶倒し屋、かき氷屋、くじ引き屋のお店と意見が纏まり、お店の品物作りをして開店させている。年齢の小さな子にも遊んでもらえるように考え、みんなが買い物に来て楽しんでいる様子を見て、達成感を味わっている。

行事に取り組んでいるこどもの姿をクラスだよりなどで知らせ、理解や協力を得ている

年間の行事について年度初めに保護者に配付して知らせている。保護者参加の所に星印をつけわかりやすい物としている。カレーパーティ時には、クッキング用のエプロンやレジャーシートの依頼を貼り紙にて知らせ協力の依頼をしている。園だよりや各クラスたより、壁新聞で、日々の遊びの様子以外にも春の年長児の田植えの様子やプール開き、カレーパーティ、お店屋さんごっこ等、保護者が参加しない行事についてこどもたちの写真を入れ配付し、楽しんでいる様子を伝え理解や協力を得ている。

5 評価項目5

保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている

評点（〇〇）

評価	標準項目	
◉ あり ◯ なし	1. 保育時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている	◯ 非該当
◉ あり ◯ なし	2. 保育時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている	◯ 非該当

評価項目5の講評

スキンシップを十分に図り、不安な気持ちにならずに過ごせるような配慮をしている

延長保育は、2歳児保育室で18時15分より合同保育を行っている。月極登録延長保育児は1歳～5歳の6名で、0歳児の延長保育申込み児がいる場合には、完了食に移行するまでは、0歳児室で捕食（ミルク）の提供を行う様にしている。延長番保育士は出勤後、延長保育児の人数・夕飯の有無の確認や遅番担当調理師と0歳児・食物アレルギー児の確認をして安全に気をつけている。少人数になりこどもが不安にならないようにスキンシップを十分に図り、くつろげる場所でゆったりと過ごせる様に配慮している。

引継ぎにはクラス連絡簿を使用して、保護者に漏れのないように伝えている

こどもの日中の状況は各クラス連絡簿を使用して引継ぎを行い、漏れのないように保護者に伝えている。延長番保育士は2名でシフト制となっている。延長専用の玩具を用意して少人数でこども達と、その時間でしか出来ない遊びをじっくり行っている。スポット延長保育は利用前月の15日から20日までに申し込み、空きが有る場合には当日の17時まで受付けている。補食の時間は18時20分となっており、夕飯は、他の部屋で19時に食べている。長時間保育の計画は年間指導計画や月案にねらいを入れ、日々の延長番日誌にこども姿を記入している。

6 評価項目6
子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している

評点（〇〇〇〇〇）

評価	標準項目	
◉ あり ◯ なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している	◯ 非該当
◉ あり ◯ なし	2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	◯ 非該当
◉ あり ◯ なし	3. 子どもの体調（食物アレルギーを含む）や文化の違いに応じた食事を提供している	◯ 非該当
◉ あり ◯ なし	4. 食についての関心を深めるための取り組み（食材の栽培や子どもの調理活動等）を行っている	◯ 非該当
◉ あり ◯ なし	5. 保護者や地域の多様な関係者との連携及び協働のもとで、食に関する取り組みを行っている	◯ 非該当

評価項目6の講評

楽しく食べる事が栄養と考え、幼児クラスでは担任も加わりゆったり食事をしている

0歳児は、月齢に分かれ少人数ずつ食事をしている。月齢により使用する椅子を替え、食べるときには”にんじん”等食材の名前を知らせ、こどもが指差しをした食材を提供して「もぐもぐ美味しいね」等話しかけながら、ゆったりと食事をしている。5歳児クラスでは給食当番が食事の配膳をして、その日のひらがなで書かれているメニューを読んで、みんなが何を食べているかを知らせ挨拶をして食べ始めている。各グループで保育士も交え楽しく会話をしながら食事をし、時計を意識できるように〇〇になったら、ごちそうさまをする事を伝えている。

栄養士は各クラスを廻り食べ具合により、切り方や味付けを変更する等工夫をしている

栄養士は年間食育計画をクラスごとに作成し、みんなで楽しく食事をすることを目標に入れ、特に行事食には目で見て楽しむ事ができる様に工夫をしている。食育指導では、三色食品群やスプーン、箸の持ち方等を家庭と協力しながら進めている。絵本を使い約束を守って美味しく食べられる事を知らせている。喫食状況は下膳された残食を見て把握し、栄養士は各クラスを廻り食べ具合を給食日誌に記入して切り方や味付けの等の変更を行うなど工夫をしている。

様々な野菜に触れ収穫を行い、クッキングして食べる等食への関心を深めている

園庭では、プランターでトマト、ナス、ピーマン、ズッキーニを育て、当番が毎日水やりをして野菜により花や実のなり方の違いを知る経験をして育てる事を楽しんでいる。収穫したものを異年齢児でピザにして食べたり、カレーパーティーでは、ピーラーや包丁を使い、クッキングをしてみんなで食べている。また年長児は5月に田植えを行い、9月に稲刈り等五感に触れる体験をしたり、サツマイモの収穫を行う等様々な野菜に触れる事で、大きさ、色、実り方や収穫の方法、時期など変化がある事を知らせ、食への関心が深めるている。

7 評価項目7
子どもが心身の健康を維持できるよう援助している

評点（〇〇〇）

評価	標準項目	
◉ あり ◯ なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している	◯ 非該当
◉ あり ◯ なし	2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている	◯ 非該当
◉ あり ◯ なし	3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み（乳幼児突然死症候群の予防を含む）を行っている	◯ 非該当

評価項目7の講評

看護師は年間保健計画を立案して毎月、健康に関心を持つ取り組みをしている

看護師は年間保健計画を立案して、幼児組に向けて、トイレの使い方や手洗いの仕方、プライベートゾーン、内臓や骨の話、年度末には命の話や年長児は就学に向けて和式トイレの使い方等、健康教育を行っている。手洗い指導を3歳児から行い、専用のローションを使いブラックライトの下で洗い残しの確認をする等、子どもたちが目で見てわかるような知らせ方をして手洗いの大切さを伝えている。2歳児に向けては後半に手洗いの仕方を知らせる計画も入れ、子どもたちが健康に関心を持つ取り組みを行っている。

嘱託医とは連携を行い、年2回の定期健康診断等で健康管理を行っている

嘱託医による定期健康診断を年に2回（0歳児に向けては月に2回）行い、歯科健診も2回行いこどもの健康管理を行っている。毎月身体計測を行い、定期健康診断の結果等も含め、健康カードにより保護者に成長過程を知らせている。看護師は毎朝保育室（0歳児は昼も）を回り、こどもの健康状態の把握を行い保健日誌に記入している。嘱託医には、救急車の要請等や受診についての相談など電話で行い、連携を図っている。看護師は職員に向けて嘔吐処理やAED等様々な年間研修を行い、こどもの健康維持に向けた取り組みも行っている。

SIDSの予防を知らせ、感染症に関する情報は保護者に随時伝え注意喚起を図っている

新入園児オリエンテーションではプレゼン用ソフトを使い、SIDSの予防を知らせている。また0歳～2歳児クラスの受け渡し室に掲示を行っている。午睡時に0歳児にベビーセンサーを使い5分毎、1・2歳児は10分毎、幼児クラスでは30分毎に呼吸、顔色、体制をチェック表に記載して、予防を図っている。また熱性けいれんを起こした事のあるこどもの傍に保育士が付くなどの配慮を行っている。感染症発生のお知らせを玄関外に掲示する他に、毎月のほけんだよりに病名、人数等の感染症の状況を知らせ注意、喚起を図っている。

8 評価項目8

保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている

評点（〇〇〇〇〇）

評価	標準項目	
◉ あり ◯ なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	◯ 非該当
◉ あり ◯ なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	◯ 非該当
◉ あり ◯ なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	◯ 非該当
◉ あり ◯ なし	4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	◯ 非該当
◉ あり ◯ なし	5. 保護者の養育力向上のため、園の保育の活動への参加を促している	◯ 非該当

評価項目8の講評

保護者が安心して子育てと仕事の両立ができる様柔軟な対応を図っている

入園時に各家庭の個別事情や保護者の仕事の状況などを聞き把握しているが、急な残業等による時間延長は、当日の17時までの電話での受付も行い、土曜日保育も当日の受け入れも柔軟に対応をして、保護者の就労の支援を行っている。玄関に有る事務所の窓口で、相談事などが有る時には、気軽に声をかけて貰い保護者とコミュニケーションを図っている。個別の保護者の事情は、クラスに伝え、早番や遅番にかかる等全体で共有を図らなければいけない案件については、全職員に周知をしている。

保護者会の中に懇談の時間を設け、保護者同士の交流を深めている

各クラスの保護者会を年2回行い、年長児クラスは、年3回行っている。参加しやすいように年度初めには土曜日に設定したことで多くの保護者が参加している。保護者会の中で一言ずつ話して貰う機会を設け家族や友人等で行ってみて良かった、行ってみたいお出かけスポットを教えて貰い和やかな雰囲気で交流を深めている。夏まつりやうんどうかい等行事の他にも年度末の保護者会では、クラスにより親子で一緒に遊び、保護者同士が交流を深めることが出来るような工夫をしている。

こどもの姿の情報発信を行い、園と保護者が共通認識を持てるようにしている

毎月配付している園だより、クラスだより、ほけんだより、給食だよりで保育の中のこどもの姿を伝え保護者と共通認識が持てる様に配慮している。園だよりでは園長とこどもの会話や写真入りの手遊び、室内遊びを知らせ、各クラスたよりでは、雨の日の遊びや保護者不参加の行事の様子や日常保育の様子を伝えている。また、ほけんたよりでは毎日の排便や睡眠の話等こどもが健康に過せる情報を知らせ、給食だよりでは食育活動について知らせている。たよりを読むことでこどもとの会話を増やし楽しみが共有できるようにしている。

9 評価項目9

地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている

評点（〇〇）

評価	標準項目	
◉ あり ◯ なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	◯ 非該当
◉ あり ◯ なし	2. 園の行事に地域の人の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	◯ 非該当

評価項目9の講評

地域と様々な関わりを持ち交流の場を設け、こどもの生活を広げる機会を増やしている

年長児は毎月図書館を利用し好きな絵本を借りてきて部屋に置き、借りてきた絵本の名前を廊下に紹介し、園の本とは違う絵本を楽しんでいる。毎月読み聞かせのボランティアが来て3歳児と4・5歳児の2回に分かれ、パペット人形等を用いて季節に合わせた、お話に触れる機会を楽しいものとしている。また近隣の幼稚園や保育園と保育交流を行い同じ小学校へ通うこどもとの交流の場となっている。5月には近隣の神社にこども達の書いたこいのぼりの絵を掲示して貰い、親子で神社を訪れ地域との関わりを増やす機会を設けている。

地域の保育ママや中学生との交流を図り、子育て家庭に向けた取り組みも図っている

地域交流として毎週園庭遊びやお話し会、クリスマス等の行事へのお誘いの計画を立て、園の門や出張所にポスターの掲示をお願いをして呼びかけをしているが参加者が少ない現状がある。保育保育ママが預かるこども達が来園し、一緒に遊んだり、看護師による身体計測を行いカードにして渡している。近隣の中学生の職場体験学習も受け、こども達と一緒に楽しく遊ぶ等交流を図り、お礼の手紙も貰っている。今後ポスターの掲示場所を増やし他園の交流計画などを参考にしながら地域に向けた取り組みを検討していきたいと考えている。

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	4-1-1	事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる
タイトル①	事故の未然防止に向けヒヤリハットやケガ報告の管理を定着させ安心・安全に繋げている	
内容①	事故の未然防止対応としてヒヤリハット管理を行い、実施方法は各クラス別に職員がヒヤリと気づいた都度、簡単に内容を記録できる方法で管理して定着している。毎月20～30件程集まり事務所で職員が共有する仕組みもあり、大きなヒヤリハットの場合は、別途ヒヤリと感じて確認した内容の経緯やその時の状況、今後の再発防止の詳細も纏めて必ず共有している。園長の今年度の方針は「安心・安全を大切にします」としており、ケガ報告書も全てクラス別に報告され、看護師が全体の集計・分析をして傾向を掴み再発防止に向けて職員全員と共有している。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	5-1-4	職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる
タイトル②	職員の働き方改善に取り組み仕事量の見える化や効率化を進め就業環境改善に努めている	
内容②	職員の働き方改善は2年続けて重点として事業計画にも明示して取り組んでいる。昨年度は職員全員の定時退社を図るために、上司が職員の仕事量を把握できるよう「持ち仕事ホワイトボード」を設置して全体を把握し仕事に見合った時間が取れるようにしている。仕事の効率化では職員の意見から、保育日誌のプリントアウトを廃止しパソコン画面で確認、押印に変更し作業の軽減を図るなど成果が出ておりサービス残業は無くなっている。今年度も継続して取り組み、着替え時間、引継ぎ書類時間を勤務時間内で確保等職員の就業環境の改善に取り組んでいる。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	6-5-2	サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している
タイトル③	子どもの人権を尊重できるよう非常勤職員も含め振り返る機会を持ち園長面談をしている	
内容③	保育をする上で子どもの意思を尊重できるように、肯定的な言葉かけができるよう心掛けている。保育者の気になる言動があった場合には、職員会議などの場でみんなで考える時間を持つようにしている。不適切保育についての研修で、意見を交わす中で自分を振り返る機会になっている。また、人権擁護のセルフチェックリストを全職員に配付し、非常勤職員には、提出する際に、不適切な対応だなと思う事例を書いてもらうよう伝えている。園長面談の時に、個々に記入して持参してもらい、自分の言動を振り返り、一緒に考えたり、指導する機会を持っている。	

《事業所名：雪谷保育園》

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	こども達のやってみたいと言う思いを受け止め、どうすればできるのかを一緒に考え実現させ次の遊びに繋げている
	内容	4歳児のこども達の「お風呂屋さんをやりたい」と意見を受け、お風呂屋さんに連絡を入れ、こども達と下見に出かけている。イメージを膨らませ、どうすれば出来るのかを一緒に考え「にじいろおふろ」と命名し大きな紙に書き、開店させている。おふろやさんごっこの終了後も続きがいつでもできる様に部屋に掲示して遊びを楽しんでいる。また近隣公園の怪獣のモニュメントの歯を見て、磨いてあげたいとの意見から園のデッキブラシを持って出かけ歯磨きを試みる等、子どもの発想に寄り添い願いを叶え遊びを展開できる保育を大切にしている。
2	タイトル	田植えや稲刈り、芋ほりで土の感触の違いや、園庭の野菜の生長を観察する等自然に触れ、五感の発達を促す機会をもっている
	内容	「自然界の中にある色々なものに直に触れる機会を増やすこと」を保育目標に挙げ、初めて5歳児が田植えや稲刈りの体験をしている。こども達には絵本を通して、田んぼの中の生き物や苗を植えることを知らせ、興味や関心を持たせている。素足で田んぼに入り苗植えや泥の感触を体験したり、秋には稲の収穫に出かけている。また、芋ほりに出かけ、田んぼとは違う土に触れたり、園庭で夏野菜を育て生長を観察するなど、様々な自然に触れる体験を通して、五感の発達を促す機会を持っている。
3	タイトル	業務の見直しでは、日常的に問題点や検討事項が職員から報告されている中で、年度末に職員アンケートを取る方法で改善につなげている
	内容	業務内容に対しては、責任者会議で方向性を決め職員に周知したり、事務所のホワイトボードに各職員の抱えている仕事内容や進捗状況を記入し、仕事を見える化する取り組みが行われている。年度末に職員アンケートを実施し、行事の取り組みに対して幼児クラスと0歳児から2歳児クラスの温度差が問題になり、検討が行われている。例えば、発表会では、4・5歳児で使う作り物は全体で行うことや当日の運営は0歳児から2歳児が担う等を決めたり、前日の準備は昼から始め残業をしないように工夫するなど、職員から出た意見を取り入れ改善につなげている。

No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	保護者の意向は常に把握して対応しており、今後は年度末に園の取り組みに対する総合的なアンケートの実施を仕組みとする事に期待したい
	内容	保護者の意向は、保護者参加行事後に必ず電子アプリでアンケートを実施して感想や意見を把握している。要望や意見に関しては次年度の行事打ち合わせの中で検討事項として討議し改善に努めている。また保護者会や個人面談の前の出欠確認時に、聞きたい事、詳しく説明してほしい事等予め意向を確認して内容に反映している。今後は年度末に園の取り組み(保護者対応、地域対応他)等の総合的なアンケートとして、肯定的な質問を園で工夫して実施し、把握した意見や要望は次年度の運営に反映していく事を新しい仕組みとして検討される事に期待したい。
2	タイトル	今年度導入した中長期計画は取り組み事項が具体的なので、今後は3年後の目指す姿を設定し園長の想いを職員全員と共有する事に期待したい
	内容	中長期計画は今年度新たに作成し、2024年から3年間、及び2027年の長期目標の構成で、保育内容、ICT化、地域貢献、子育て支援計画、防災対策、環境・施設整備、人材育成の項目別に取り組み事項を詳細化している。中長期計画はまだ職員全員と共有されていない事もあり、今後は中期3年後に向けてどのような保育園を目指しているか、園長の想いを設定して職員全員と共有する事が望ましい。目指す姿に向けた今年度の実施項目を説明するとともに、今年度の事業計画に繋げて園の重点に行う項目を明示して職員全員に周知する事を期待したい。
3	タイトル	園独自のマニュアルは職員に配付し活用しているので、更に、区で作成しているマニュアルを個別に配付するなどの検討を期待したい
	内容	園独自に各仕事および流れ、シャワーや水遊び、食具とマナー，パンツ移行についてなどを保育園マニュアルとして作成し、ファイルにして各職員に配付し活用している。区で整備している感染症対応ガイドライン、事故防止ガイドラインなどの看護師・保健関係マニュアル、アレルギーガイドラインや誤嚥・窒息事故防止マニュアルなどの栄養士・給食関係マニュアルなどは事務所の書棚に保管されている。これらの一覧表を作成し、必要な個所を配付し、読み合わせ周知すること、また、法人と区のアレルギー食提供の違いを整理する機会を作ることも期待したい。